



▲多々産安山岩の石器



▲多々聖廟積衆（県重無形民俗）



▲多々太郎宗直肖像画（延寿寺蔵）



▲川打家住宅（国重要文化財）

多々市 歴史文化 基本構想

市内には、国指定史跡および重要文化財「多々聖廟」をはじめとする指定文化財のほか、たくさんの未指定の文化財があり、これらはわたしたちの祖先の営み、地元ならではの特色を今に伝える歴史的遺産です。

市の歴史と文化をこれからの街づくりや人づくりに活かしていくため、今年3月に“多々市歴史文化基本構想（以下 基本構想）”を策定しました。今回の特集では基本構想のポイントを紹介します。



▲面浮立

これまでの個別的な文化財把握が「ふるさと多々学」の視点によって新たなまとまりとして捉えられています。多くの市民に「ふるさと多々学」を広げ、多々の歴史文化の理解を深めます。

また、市内には多くの未指定の文化財が現存しており、未指定文化財の計画的な指定、登録を行い、さらに多くの文化財

文化財を総合的に把握し、新たな価値を見つける



▲若宮八幡宮神殿（県重要文化財）



▲肥前狛犬

を把握し、その新たな価値を見出します。

文化財を守り、継承する基盤づくり

これらの文化財を守っていくためには、市民・行政・学校・活動団体との連携・協力が必要になります。そのためには、協働の場づくり、文化財に関わる担い手の育成やその活動のデータベース化、活動資金の確保など基盤づくりに取り組みます。



▲専称寺の大つつじ（市天然記念物）

文化財を効果的に活用してまちづくりに役立てる

子どもたちが市内の歴史文化に興味を持ち、文化財サポーターになってもらうことや、シニアの歴史語りボランティアなど学校教育や生涯学習の拡充を行い、文化財をより身近に感じてもらう機会を創出します。

多々の地域や人の特色をあらわし、「多々らしさ」の基礎ともいえる多々の「歴史文化」を守り伝え、文化財を受け継ぎ活かして、多々らしさを基にしたまちづくりや、多々の魅力向上を考えていきます。



▲竪坑櫓跡